



コスモスひろば

発行 茂原市民生委員児童委員協議会

2019.10
委員向け 第13号

《編集》

広報研修対策問題研究部会

茂原市が抱える 高齢者問題

茂原市長 田中 豊彦



全国的に高齢化が進んでミニケーションをとることのできる「通いの場」づくりに努めています。五歳以上の高齢者は年々増り、平成三十年度末まで、緊急時に外部との連絡のとれる「あんしん電話」の貸与や、郵便局や宅配業者等に協力いただき、通勤業務の中できりげない見守り活動など、高齢者が住み慣れた御自宅で安心して生活できるよう、様々な事業を開拓しています。

四人、高齢化率が三十二・二%となっています。また、世帯の状況を見ますと、単身高齢者世帯や高齢者の人数は、一万八千七百九十人であります。この世帯が増加傾向にあります。

このような社会状況の中、身体的な能力の低下や、心理的な意欲の減退、さらには家族や友人の死別など、さまざまな要因による、高齢者の社会からの孤立が問題となります。

市では、「もばら百歳体操」の推進により、高齢者の運動能力の維持・向上を図るだけでなく、定期的に集まり、コ

コミュニティサロンは素晴らしい

広報部会長 丸岡 一人



近年、「通いの場」や「サロン」などの重要性が改めて注目を集めています。

高齢者でサロンに参加している人は、参加していない人に比べて「要介護認定率」が半分に抑制され、サロンは健康に効果があることが分かりました。

さらに、配食サービスよりも会食の方が精神健康に良いデータもあります。「共食」の人と比べて「孤食」の人のうつ傾向になる確率は、女性の場合は1.4倍程度ですが、男性の場合は2.7倍と高い数値です。

高齢者が誰かと一緒に食事をすることはとても大切なことです。地域のコミュニティサロンに出かけ、ゲームや歌や体操など、そして一緒に食事をして交流しあえる場が、精神的にも健康的にも良く価値があることが明らかになっています。

地域でコミュニティサロンやカフェなどに民生委員として参加し、活動を支えることは有益なことだと思います。

守りを行っていただく「高齢者見守りネットワーク事業」、認知症サポートセンター養成講座を受講した方による「ほつとみまもり隊」による見守り活動など、高齢者が住み慣れた御自宅で安心して生活できるよう、様々な事業を開拓していますが、いまだ十分とはいえない状況にあります。

高齢者に対する見守りについて、民生委員・児童委員の皆様をはじめ、関係機関の皆様のご協力が不可欠ですので、今後ともご協力をお願いします。



茂原市マスコットキャラクター
モバリン

介護の最前線を担う 地域包括支援センターと長生ひなた

特集

地域包括支援センターとは

介護・医療・保健・福祉などの側面から高齢者を支える「総合相談窓口」です。専門知識を持つ職員が、高齢者が住み慣れた地域で生活できるように介護サービスや介護予防サービス、保健福祉サービス、日常生活支援などの相談に応じており、介護保険の申請窓口も担っています。

地域包括支援センターは、各市町村が設置主体で、自治体から委託され、社会福祉法人や社会福祉協議会、民間企業などが運営しているケースもあります。人口二～三万人の日常生活圏域（多くの場合、各中学校区域）を一つの地域包括支援センターが担当しています。

いつまでも健やかに住みなれた地域で生活していくように設置されており、介護、福祉、健康、医療などさまざまな面から総合的に支えています。

今回は、介護保険制度の最前線で高齢者の課題に取り組んでいる事業体で、

茂原市内に四カ所設置されている地域包括支援センターのうち「ちゅうおう地域包括支援センター」と「もばら地域包括支援センター」、さらに「NPO法人長生ひなた」の三事業所を取りました。

茂原市地域包括支援センターの現状

※茂原市福祉部高齢者支援課より提供

(参考) 茂原市人口

(平成30年2月1日現在)

地域/項目	人口	高齢者人口	高齢化率	高齢者ひとり世帯(世帯数)
南地区（委託）	19,711人	6,998人	35.50%	876
本納地区（委託）	12,337人	4,481人	36.30%	460
中央地区（委託）	30,121人	8,946人	29.70%	1,038
茂原地区（委託）	28,139人	7,927人	28.20%	1,184
計（茂原市全体）	90,308人	28,352人	31.40%	3,558

※高齢者は、65歳以上の方です。

(参考) 平成30年度地域包括支援センター事業実績

総合相談受付数

業務内容	みなみ	ほんのう	ちゅうおう	もばら	直営	計
総合相談	1,681	675	2,268	302	998	5,924
うち虐待等権利擁護	138	58	43	6	310	555
うち成年後見	11	10	30	1	45	97

介護予防ケアプラン作成数

業務内容	みなみ	ほんのう	ちゅうおう	もばら	直営	計
介護予防サービ	包括作成分	261	57	268	13	106
ス計画業務	委託分	839	619	961	196	976
計		1,100	676	1,229	209	1,082

業務内容	みなみ	ほんのう	ちゅうおう	もばら	直営	計
介護予防ケアマ	包括作成分	123	123	181	26	107
ネジメント業務	委託分	760	536	1,040	235	726
計		883	659	1,221	261	833

ちゅうおう地域包括支援センターの活動

五月二十日、コミュニティカフェにて、譲原（ゆずりはら）センター長に業務内容の全般をお聞きしました。

Q. 地域包括支援センターに寄せられる相談事例で最近の傾向はどうですか？

A. 最近は、虐待・暴行・ネグレクトが増加しています。警察からの連絡があることが多いです。市役所と民生委員の方と相談して解決方法を見出します。

Q. クレーマーなどは？

介護のプランに対して気に入らないなどの苦情があります。地域包括支援センターでは、担当地域に住んでいる高齢者自身からの相談はもちろん、ご家族や友人、近所の方からの相談も受け付けています。高齢者自身は、まだまだ大丈夫と自分



▲譲原センター長（右）と職員のみなさん=ちゅうおう地域包括支援センターにて

きているので、今後も協力関係を継続していきたいと思います。

Q. 行政に望むことは何かありますか。

A. 最近は家族に捨てられることがあります。そのためご家族やご近所の方の気づきと相談は大事に至ることを防ぐ重要な役割を果たしています。些細なことでもおかしいなど感じたら相談を下さい。

Q. 民生委員に望むことは、ありますか。

A. 民生委員の方とは、連携を取りながら活動がで

【事例】孤立する独居高齢者

一人で暮らしていたAさんは（六十九歳・男性）は、奥さんに一年ほど前に立たれてから近所の人も見かけることが少なくなっていました。

その日は徒歩で二十分ほどかかる、近くのス

パーに買い物に出でました。ところが途中で動けなくなり、倒れていたところを通行人に発見され、救急車で自宅の前まで搬送され

Aさんの息子は福島に通張のため連絡が取れなかっただ。民生委員にも連絡があり、東京の親戚からこまき、委員が自宅に駆け付け、警察と救急隊員から状況説明を聞いたところ、意識ははつきりしているが、

倒れたのは栄養失調のようだ。これから病院に搬送するので付き添つて欲しいと要請された。

委員が病院につくと、Aさんは治療室を出て車いすに座ったまま頭を横に寝ついているようで、声をかけてもあまり反応がなく、看護師に聞くと洋服を替えおにぎりを与えたと説明された。委員は治療室に呼ばれ、医師と看護師から、意識がはつきりしており治療を終えた、入院はできないとしたが、

翌日、職員が病院と警察に状況を尋ねたが、双方に個人情報のため教えられないと言われ、釈然としない感じだったが、その後亡くなつたとの知らせを受けた。

の後、容体が悪化している

もばら地域包括支援センターの活動

地域社会との繋がりを大切に

茂原市もばら地域包括支援センター（社会福祉法人兼愛会）は、これまでの市直営に替わり平成三十一年一月一日に設置されました。管理者の社会福祉士山口さゆりセンター長より地域の現状、課題、抱負等お話をお聞きしました。

地域の特性と課題

工場や社宅等の跡地にマンションが多く建設されていますが、ご近所同士の付き合いの少ない方や相対的に高齢の独居者が増加傾向にあり、また、もばら地域包括支援センターのある駅前商店街に接している榎町通りは、従前は何でも揃う茂原の中心街として繁栄していたが、



▲山口センター長（左）と職員の皆さん
＝もばら地域包括センターにて

現在は多くの店舗が閉店しシャツタード下がつている、俗にいうシャツタード商店街化し、かつ大型スーパー・マーケットも閉店し、歩いて買い物に行ける店舗が少なくなり、年金生活ではタクシー利用での買い物は難しく、買い物難民が増えています。

このような多種多様な課題が顕在している地域を、保健師一名社会福祉士二名主任介護支援専門員一名で対応しているところであった。

センターの取組み

限られた職員で多忙な業務を処理しながら日々の訪問活動を行つており、利用者との日常会話を通じて信頼関係を構築することにより、必要とするサービスの提供を行つてきている。その中には、何

かいを持つて子の子どもを養育している家庭は、親子の関係性が築けておらず実情の把握が出来ずに対応が遅れる傾向にある。また、それぞれ高齢化し、養育者本人の介護や子供の生活等「八〇五〇問題」が顕在している。

さらに、就労意識の少ない生活困窮者や生活保護世帯が増えている。

このような多種多様な課題が顕在している地域を、保健師一名社会福祉士二名主任介護支援専門員一名で対応しているところであった。

次に、身体や精神に障がいを持つて子の子どもを養育している家庭は、親子の関係性が築けておらず実情の把握が出来ずに対応が遅れる傾向にある。また、それぞれ高齢化し、養育者本人の介護や子供の生活等「八〇五〇問題」が顕在している。

次に、身体や精神に障がいを持つて子の子どもを養育している家庭は、親子の関係性が築けておらず実情の把握が出来ずに対応が遅れる傾向にある。また、それぞれ高齢化し、養育者本人の介護や子供の生活等「八〇五〇問題」が顕在している。

さらに、介護サービスは自立を支援するためのものであり事前に内容等を説明するが、利用者は家政婦と勘違いし過度のサービスを期待して、相互不信に至る傾向がある。しかし、ケアマネージャーと長く付き合つてもらうこと等、地域社会との繋がりを絶たないよう活動を行い、かつ医療機関との連携を図り家族が安心して在宅介護等が出来る環境作りに積極的に取り組んでおり、引き続き行政、民生委員・児童委員等と連携しお仕事と進めていきたいとのことです。

※「八〇五〇問題」

ひきこもりの状態が長期化し相応の年齢になり、さらに高齢となつた親の収入が途絶えたり、病気や要介護状態になつたりして、経済的に一家が孤立・困窮する「八十代の老人と五十代のひきこもりの子」のケースが増えてきている社会問題のこと。



▲山口センター長（右から2番目）のお話に耳を傾ける＝もばら地域包括支援センターにて

（担当　伊藤・榎原
正林・関根）

（担当　伊藤・榎原
正林・関根）

NPO法人長生夷隅

地域のくらしを支える会

「長生ひなた」訪問記

去る五月二十日、私たち広報部員は「長生ひなた」と呼ばれている「中核地域生活支援センター」に訪問して、所長の渋沢茂さんにその設立の由来、目的、果たす役割や現在行っている支援事業などをお聞きしました。

【設立】そもそもこの支援センターは長生地域のみと千葉県第一期地域福祉支援計画を作成する中で、この地域に中核支援センターを作る構想があり、渋沢所長はそのメンバーの一員として関わりを持つていました。長生ひなたは、茂原市人として関わりを持つて活動を続けています。

【運営】現在職員は所長以下十一名で活動をしており、社会福祉士、臨床心理士、保健師、介護福祉士、介護支援専門員等の方々が専門分野での支援が出ます。現在「長生ひなた」の活動

くくりはないのです」とお話しされ、活動内容の多岐にわたる範囲を示されました。行政で対応できない支援の隙間を埋める、繋ぐ、寄り添うことなどの業務が多いということです。以下、具体的な事例を挙げます。

所した方の迎えを依頼される。(2)家出少年と向かい合い2週間宿泊させた。(3)子どもの虐待など通報を受けければ出向き、一次保護などをします。(4)障がい者家族の支援として、その障がい者のお世話をして運動会や旅行に参加する。

「仕事は案外楽しい、いろいろな人や出来事に合うため、自分がしたことが役に立っているということが嬉しい」

【**活動精神**】

- 断らない、まずは動く
- 地域の関係者との関係性を重視する
- 迷った時は弱い人の立場に立つ
- 結論を急がない
- 正解を求めない
- 地域をつくることを考える



▲渋沢所長(左)の活動精神を大いに学んだ=長生ひなたにて

【**目的**】この支援センターではどんな支援をしているのか、お訊ねしてみました。渋沢所長は一言、「相談に二十四時間対応、内容にこれと言つて

【**事例**】①刑務所から出所した方の迎えを依頼され。(2)家出少年と向かい合い2週間宿泊させた。(3)子どもの虐待など通報を受けければ出向き、一次保護などをします。(4)障がい者家族の支援として、その障がい者のお世話をして運動会や旅行に参加する。

【**やりがい**】最後に、私達には難しそうに見える仕事をですが、大変に思いました。渋沢所長は「相談に二十四時間対応、内容にこれと言つて外というのはない。ほぼ何でもする。何をするといふのは決められていない」と、やりがいを感じる時にはどんな時かを渋沢所長にお聞きしますと、



▲渋沢所長

月曜日のお忙しい時間帯に、訪問を快諾して頂いたその寛容さと、更にお聞きする活動内容で想像を超えた「長生ひなた」のひだまりのような温かい精神に、一同は襟を正す思いで帰路に着きました。

【**対象**】子ども、障がい者、高齢者、貧困者、行き先のない者、権利擁護の支援等

(担当・井上、船津、横田)

りお言葉をいただきました！

民生委員を退任するにあたり

北部地区民生委員児童委員協議会会長 鈴木 譲之



平成15年4月より民生委員活動に入り、足かけ17年となりました。この間多くの先輩、同僚、地域の皆様のご協力を得て何とかやってくることができました。その中で特に気になっていることは、就任時の生活保護受給者は2名でしたが、現在では11名となっていることです。確かに最後のセーフティネットが生活保護制度だと思います。現状を見ますと家族、親族からも援助を得られない人が増えているということではないでしょうか。日本の古き良き伝統である家族制度が崩壊してきていると思わずにはいられません。

少子高齢化、児童虐待の増大等、民生委員の果たす役割は大きくなっていくと思います。幸い行政機関各部署の体制は充実しています。それぞれと連携して取り組み、決して一人で解決しようと悩む必要はないと思います。肩の力を抜いて取り組んでください。

皆様のますますのご活躍を祈念しつつ退任させていただきます。

長い間大変お世話になりました。

振り返れば

鶴枝地区民生委員児童委員協議会会長 鶴見 公男



福祉について、知識不足で前任者より引き継ぎ、1期（3年）が早く、何をしてよいのか、何を目標に活動してよいのか、先輩から指導いただき、自分なりに努力してみたが追いつかずの3年を過ごしてしまいました。今思えばもっと皆さんと話し合う場を多く持つ期間であるような思いです。

民生委員は家族の理解が非常に大切だと感じます。何か事が起き暗い顔しても迎えてくれる家族がいれば活動の源になります。

長年、民生委員活動をして多くの方との出会いの中、地域住民のこれまでなかつた一面が見え、多くの課題が山積みされています。私達民生委員は「支えあう、住みよい地域社会から」をスローガンに活動、「住民の立場にたってまちの福祉を担うボランティア」をまだ認識されていない住民がいることはPR不足かと感じますところです。

また、今年の5月末に起こった川崎の殺傷事件は何とも言えない事件ですね。私も過去にこれは違う、精神障害で問題のある担当地区となりましたが、地区民児協の定例会で取りあげ皆さんで問題点を検討し、見廻り、機関との連絡調整などの様にするか、とにかく地区民児協担当に近い人の見廻り、連絡網と臨時会合の実施で解決しました。

最後に、事業委員として担当致しましたが、事務局、並びに各委員の方のご協力で多くの方に参加していただき誠に感謝致します。今後も事業委員の方の良いアイデアで親睦会に多くの参加をされますことを期待します。

退任される地区民児協会長よ

“聴く”を理解するのに10年！

～耳で聞き目で見て心の叫びを感じる～

豊田地区民生委員児童委員協議会会长 千村 文彦



私が民生委員に就任した直後の暮れに、生活に係る難しい問題が発生した時、高山義政先輩委員のすばらしい対応（聴く）が、民生委員を続ける基礎となった。2期目は広報部会で他地区の委員との交流により、考え方の幅が拡がった。（基礎期間）3期目は心配ごと相談所の相談員として、若菜・中山主任相談員、河辺・斎藤弁護士からのご指導を得て、法的根拠などを勉強させてもらった。（成長期間）4期目は最年長になってしまったことから地区会長に互選された。委員定数は10名から15名体制となり、紆余曲折であったが各委員の協力の御陰で無事退任できることに感謝している。（最終期間）

怪我をして体調を崩し、家に引き籠りが多くなった独居Aさん、心の叫びを感じて付き添う形で救急車に同乗し、事なきを得た。暮れから係り、「四月から学校へ行こうネ」と誘い、だんだん心の距離が狭まり、学校の協力も有り四月から登校してくれたB君。そして五郷地区民児協研修視察のお誘いを受けたこと等、楽しみ苦しみながら委員を続けたご褒美として健康を頂いた。新たにドローンに挑戦したい。

平成30年度 表彰受賞者のみなさま

全国民生委員児童委員連合会会长表彰

東部	酒井 幸雄	会長	五郷	杉崎 晓康	委員
	杉原 孝子	委員	鶴枝	齋藤 博	副会長
中央	田中 保藏	会長		田中 富子	委員
	鈴木 勝博	委員		寺尾 祥子	委員
	鈴木 明美	委員		道脇 美彦	委員
豊田	千村 文彦	会長	東郷	白井 敏子	会長
北部	諸岡 弘之	委員	本納	中村 正孝	副会長
	大多和正江	委員		大野 育	委員

千葉県社会福祉協議会会长表彰(民生委員・児童委員功労)

茂原市社会福祉協議会会长表彰(社会福祉功労)

東部	天野恵美子	委員	西部	白鳥みゆき	委員
北部	鶴岡 敬子	委員		田中 宏子	委員
五郷	秋葉 易秀	委員	二宮	大塚 悅子	委員

おめでとうございます

「児童虐待」について思うこと

茂原市民生委員児童委員協議会

会長 田中保藏



特別寄稿

編集後記

発行以来、今年で十三号となりました。

今年一月野田市の小学は在つたように思います。校四年生の女兒が父親の虐待によって、亡くなると対する地域の関心は極めいう痛ましい事件が起き、て薄くなり、親は子育ての以来同様の事件が幾つも報道されました。

幕末から明治にかけて来日した欧米の人々の見聞録を読むと、当時の大人たちは、「子どもをかわいがり、子どもがないとつまらなそうにしていた」と会は、安全で安心できる社会でもあり、それは多くのことはほとんどなく」「日本人は子どもを徹底的に甘やかせて育てる」とも記述されています。

子どもの成長を地域の中で見守つていく状況は、私たちが子どもの頃の、今から四・五十年前に方などが指摘されていました。

す。私たち児童委員をはじめ地域の人々の在り様も課題です。

今の時代、ほとんどの家庭において、男性も女性も

られていて、子どもたちにとつては余裕の少ない大変生きづらい時代ではないでしょうか？

子どもたちが色々な意味で健やかに成長する社畜は、安全で安心できる社会でもあります。こ

とに、仕事と家事・育児の両立は想像以上にストレスがたまると考えられます。

今回は、それらの機関の具体的な活動を取材してまとめました。皆さまの活動のお役にたてたらと思っています。(一)

編集委員紹介

部会長(東郷)丸岡 一人
副部会長(東部)井上 昭子
副部会長(中央)榊原 敏眞
部会員(豊田)平田 春代
(北部)伊藤 久美江
(五郷)船津 博
(西部)正林 康男
(鶴枝)関根 幸房
(二宮)土屋 信子
(本納)横田 はま子